

2022年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500hPa 高度では、ロシア西部付近～北太平洋北部で波列パターンが見られ、ロシア西部付近、北太平洋北部で正偏差、中央シベリア～沿海州で負偏差となった。200hPa 風速をみると、亜熱帯ジェット気流は中国付近で北に蛇行した。偏西風は、北太平洋、北大西洋で平年の位置と比べて北寄りを流れた。海面気圧をみると、北大西洋北部～西シベリアで正偏差、東シベリア～アラスカ付近で負偏差となった。太平洋高気圧の本州への張り出しは、平年と比べて弱かった。850hPa 気温をみると、ロシア西部付近、カナダ西部～米国北西部で高温偏差、中央シベリア付近で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、アラビア海北部～パキスタン付近、インド洋熱帯域の南東部～インドネシア南部、南シナ海北部で活発、フィリピンの東海上、西部太平洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬前半にインド洋東部～インドネシア付近を、中旬はアフリカ付近を東進した。対流圏上層では、ユーラシア大陸上の亜熱帯ジェット気流に沿う波列パターンが見られ、中国北部で高気圧性循環偏差、中央アジアで低気圧性循環偏差となった。熱帯域の対流圏上層では、大西洋付近で南北半球対の高気圧性循環偏差、太平洋西・中部では南北半球対の低気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、日本の南海上で高気圧性循環偏差となり、熱帯域では対流圏上層とは逆の南北半球対の偏差パターンと

なった。海面気圧は、熱帯域では、太平洋中部～東部で正偏差、大西洋～アフリカ～インドネシア付近で負偏差となった。南方振動指数は+1.4だった。

世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.28℃(速報値)で、1891年の統計開始以降、8月として2番目に高い値となった。8月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.71℃/100年(速報値)である。

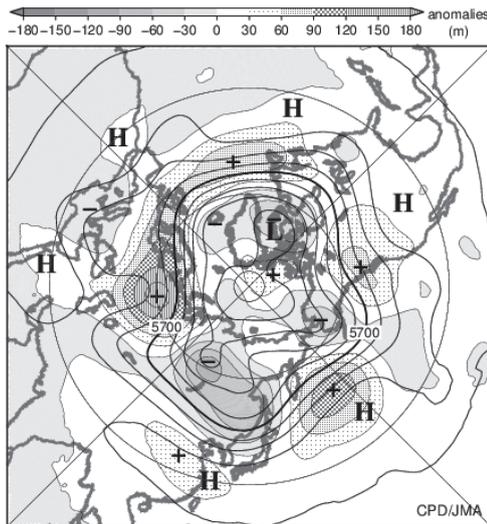
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 九州地方～中国南西部、西シベリア北部～ヨーロッパ東部、ヨーロッパ中部～北アフリカ北西部、カナダ中部～米国西部、オーストラリア北東部～ニュージーランドで異常高温、中央シベリア南部、パキスタンで異常低温となった。
- 東シベリア西部～中央シベリア中部、インドシナ半島北部、パキスタン～オマーン東部、サウジアラビア西部、ヨーロッパ東部～南部、米国南部、ボリビア東部～パラグアイで異常多雨、西シベリア南西部～ロシア南西部、ヨーロッパ中部～北西部で異常少雨となった。

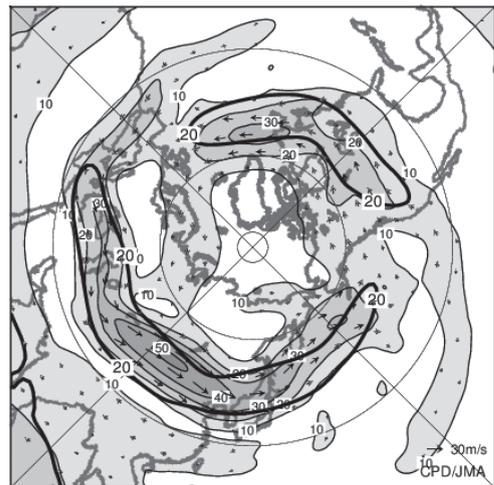
(気象庁 大気海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

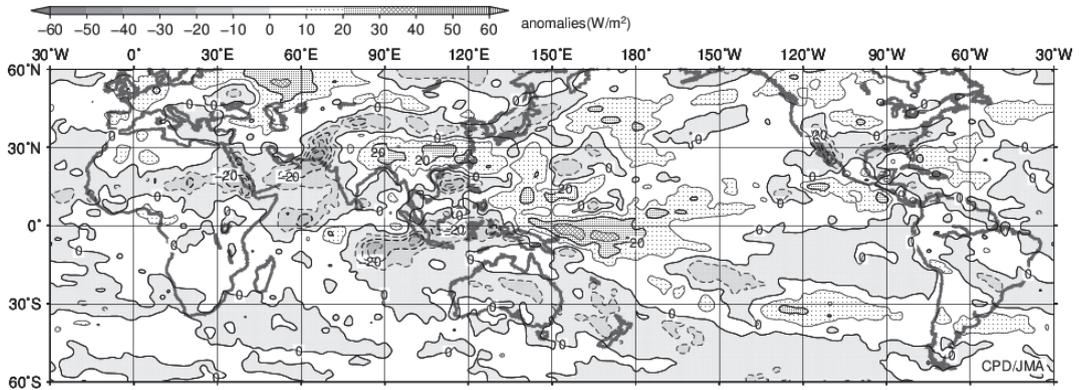
<https://www.data.jma.go.jp/cpd/diag/sokuho/index.html>



2022年8月の北半球月平均500hPa 高度及び
 平年偏差
 等値線間隔は60m. 陰影は平年偏差. 平年値は
 1991～2020年の平均値.

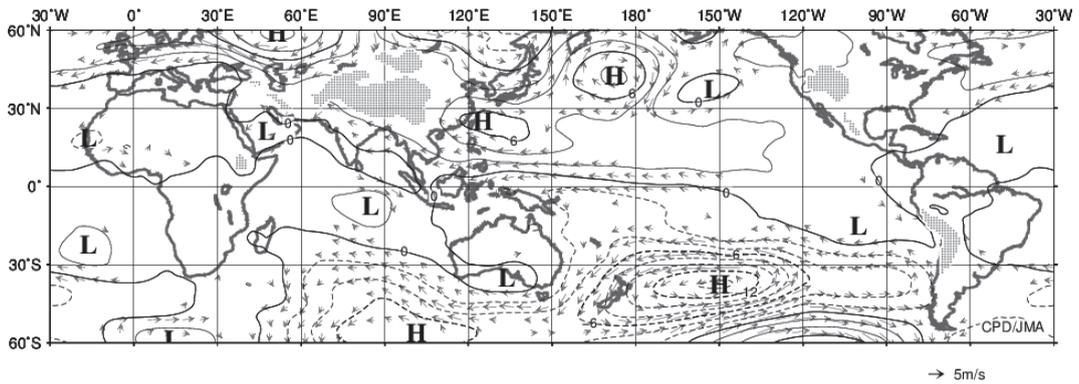


2022年8月の北半球月平均200hPa 風速及び
 風ベクトル
 等値線間隔は10m/s. 太実線は平年の風速で等値
 線間隔は20m/s. 平年値は1991～2020年の平均値.



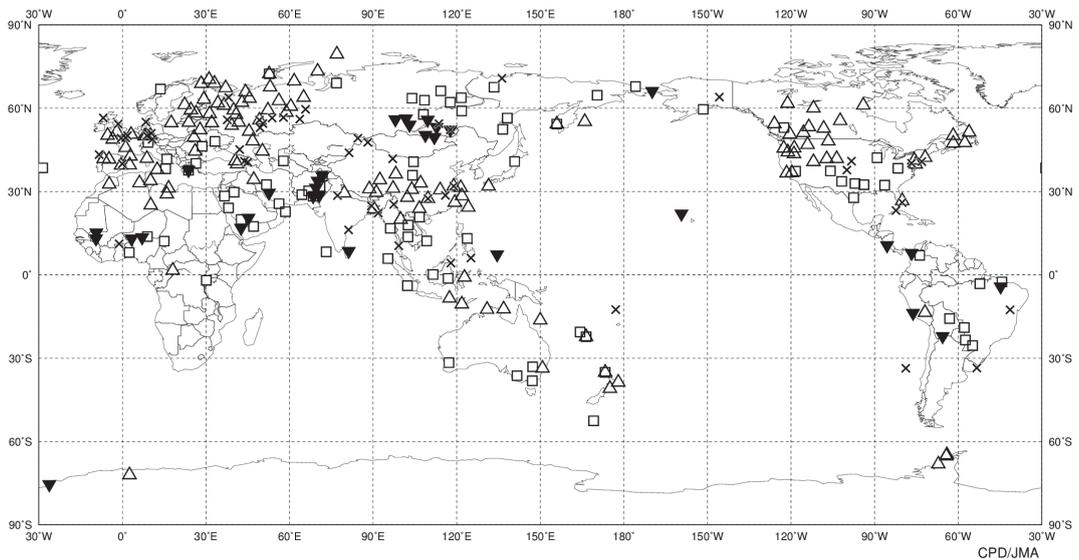
2022年8月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1991～2020年の平均値。



2022年8月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1991～2020年の平均値。



2022年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。